

言語活動を意識した指導とその評価

～保健室経営計画から考える～

学校保健 杉本 千津

1. テーマ設定の理由

平成20年3月の学習指導要領では、「生きる力」が継続され、その上で基礎的・基本的知識の習得、思考力・判断力・表現力の育成、学習意欲の向上がポイントとしてあげられている。その新学習指導要領の中で、学校における体育・健康に関する指導は、「日常生活において、適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮しなければならない」と示された。さらに、保健体育科の保健分野では、「個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる」と示されている。これは、オタワ憲章（1986年）で「人々が自らの健康をコントロールし改善することができるようにするプロセス」と述べられたヘルスプロモーションの理念を受け継いでいる。

昨年度の学校研究では、『新学習指導要領の実施に向けて（2年次）～言語に関する能力の育成を意図した取り組み～』という主題のもと、学校保健では『子ども自身が自己の心身を表現する言語活動（説明）』について取り組んだ。保健室へ来室した生徒が、養護教諭に自己の症状を説明する場面について取り上げ、生徒自身が説明できたとする自己評価と養護教諭が説明できていたとする他者評価を行い、その違いを検討した。その結果、生徒（自己評価）と養護教諭（他者評価）では違いがみられ、自己評価と他者評価の差を縮めるためには、言語による評価基準を明確にし、生徒は、養護教諭（他者）に何を伝えるべきかを知識として理解させる必要があるとわかった。

また、昨今の学校保健では、保健室経営計画の立案・評価をすることが勧められている。本校においても学校教育目標や生徒の実態、学年ごとにめざす生徒像をあげ、生徒につけて欲しい力を具体化することで、本校生徒に対し健康教育に必要な指導内容がみえてくるのではないかと考えるようになった。

それらを踏まえ、今年度の学校研究では新学習指導要領のうち「指導と評価の一体化」、「言語活動に着目した評価」をキーワードにしていることを受け、保健室経営計画に健康教育の指導・評価を導入し計画することにした。

2. 教科における言語活動について

将来を見通して生徒の成長を見つめたとき、できるだけ主体的に自己の健康について管理し改善していく力をつけていくことが必要である。その力をつけるために、学校保健ではヘルスプロモーションの理念を健康に関する思考力・判断力・表現力と類似しているととらえ、健康に関する思考力・判断力・表現力を次のように定義した。

- | |
|--|
| <p>【思考力】健康に関する知識やその他の教科で学んだ知識を活用し、健康課題の解決に向けて考える力</p> <p>【判断力】健康課題の解決に向け、今まで生活上や学習上で学んだ知識を選択していく力</p> <p>【表現力】健康課題を解決するために思考・判断したことを他者に向け、自分の思いや考えを表す力や行動を変容させていく力</p> |
|--|

この思考力・判断力・表現力等を育むために、学校教育全体で言語活動を意図した取り組みが必要であるとされているが、保健室では、生徒と養護教諭による言語活動（言葉、身体表現などすべてを

含めて) がとても多く行われている。生徒が訴えてくる内容には、言葉により理解する部分もあるが、心身の状態を養護教諭が読み解いていく場合も数多くある。

しかし、生徒に「生きる力」をつけるためには、養護教諭が生徒を理解する一方ではなく、生徒が自らの言語活動により相手に伝え理解してもらう表現力が必要である。

また、医療機関に受診した際、現在の症状を書くことや今の健康状態を振り返り自らの生活をつなげて考えることが大事である。そのため、説明することだけでなく書くことで表現する必要もあると考える。

3. 言語活動の場面、形式

(1) 場面について

昨年度の研究結果より、体調不良になった際に関係する生活状況（睡眠や食事、生活リズム等）が何かということと痛みや症状の表現方法がわからずに伝えにくい原因となっていることが分かった。そのことから、健康に関する思考力や判断力を育てていくとともに、保健室来室時での言語活動に必要な表現方法を型として教えていくことが必要であると考えた。

(2) 形式について

表現方法の型を指導するためには、来室するたびに一人ひとり教えていく個別指導もあるが、保健指導として一斉指導を行い、生徒が共通理解していく方法を併用した方が効果的である。そのため、健康教育の中に言語活動を取り入れていくこととした。方法は、教室で保健指導を行い、来室時の健康状態をお互い伝え合う型の学習をペアワークで行うことと、その後保健室へ来室した時の言語活動を形成的評価で養護教諭が生徒とやりとりしながら行うことができると考えている。

4. 保健室経営計画と健康教育における評価について

言語活動を取り入れた指導を考えた際、学校保健には特定の授業はなく、新学習指導要領の各教科等の項目において、健康教育は保健体育科（保健分野）や特別活動の学級活動(2)「適応と成長及び健康安全」、学校行事(3)「健康安全・体育的行事」、その他理科、家庭科、総合的な学習の時間などで関わりがあるが、明確には取り上げられていない。健康教育は、何をしてもよいようで系統性がないのが実状である。

そのため、各教科・領域等で行われている評価規準を使って健康教育を行えるのではないかと考えた。まずは、特別活動などで作成されている目標や評価規準、評価方法を参考にして保健室経営計画に健康教育における評価規準を作成することに取り組んだ。作成するにあたり、学校教育目標と生徒の実態、めざす生徒像から学校保健目標を作成し、それを受けて学年ごとに健康目標を立てた。その後、健康教育における評価規準を作成し、学年ごとの年間計画として、活動内容、ねらい、めざす生徒の姿を作成した。＜資料①＞

その中で、毎年行われる定期健康診断は、自らの健康を意識し自己管理につなげていくための教材に成り得るが、検診で終わることが多い。健康診断は、年間を通した健康教育の一つと考え、「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校特別活動）」を参考に定期健康診断の指導計画を作成した。

5. 健康教育における評価の実際

保健室経営計画<資料①>には、保健教育だけでなく、保健管理や健康相談活動、組織活動、その他保健業務が組み込まれており、それぞれの項目に対する評価を考えたが、健康教育について生徒への指導内容や評価を記していくことは難しかった。

<資料①>

保健室経営計画 (2000年度)		金沢大学附属中学校	
学校教育目標			
自由闊達な気風の中で、豊かな人間性と確かな学力を持った生徒の育成を目指す *主体的に責任を果たす生徒 *認め合いながら共に生きる生徒 *心身ともにたくましく生きる生徒			
学校保健目標		めざす生徒の姿	
自他の心身の健康に対し、主体的に関わる生徒の育成		生徒が自分の健康状態に関心を持ち、健康上の課題を現在や将来において、自分で考え、解決(改善)できるような資質や能力を身に付けている生徒	
学年別生徒健康目標		生徒の主な健康課題	
1年生：生活習慣と自分の健康を結び付けて考えることができる。 2年生：健康上の課題を自分で考え、解決(改善)することができる。 3年生：適切な行動の選択や環境の改善について理解し、自己決定することができる。			
重点目標		<ul style="list-style-type: none"> 定期健康診断の結果、歯周病がある生徒は、全校生徒の91.8%にあたり、うち18.7%は、治療が必要と診断されている。 保健室へ来室した生徒からは、24時以降に就寝する生徒や、朝食を欠食する生徒の人数が多いように感じる。また、体調不良を訴える生徒の中で自分の生活習慣から原因を考える力が低いように感じる。 家族等周囲から学習面の期待が非常に高く、生徒自身も頑張りすぎて、ひどくなってから身体の不調を訴え来室する生徒が比較的多い。 	
1. 基本的な生活習慣を定着させ、自分自身の健康状態に関心を持てる保健指導の充実 2. 心の健康問題に関する指導の充実			
保健室経営における重点活動		保健室経営の評価	
		指標：A 計画通り実施 B 改善必要 C 実施せず	
保健管理	健康管理	健康診断後の事後措置を早期に行い、自己の健康を自分で管理するよう保健指導と合わせて力を入れていく。	・健康診断の結果を生徒の健康管理に生かしたか。評価()
	安全管理	救急体制を再確認し、教職員全体の共通理解を図り、生徒の安全を確保する。	・救急体制がしっかりと行われ、生徒の安全が確保できたか。評価()
	環境衛生管理	学校薬剤師と連絡を密にし、学校環境について適正になるよう努める。	
教育保健	保健指導	健康教育を意識し、年間通じて健康に意識させていくよう働きかける。言語活動を意識した表現力をはぐくむ。	・自己の健康目標に対し生活状況を振り返り、健康を意識付けられたか。評価()
健康相談活動	ヘルスカウンセリング	心身の健康状態を把握することに努め、教職員や保護者との連携を図り、自立に向けて支援する。	・健康相談活動を行った際の記録を残し、連携に生かされたか。評価()
組織活動	生徒保健委員会	保健委員自らクラスの健康について配慮でき、学校全体で健康について意識できるような取り組みを自主的活動として行うことができるよう支援する。	・保健委員による自主的活動が活発に行われたか。評価()
	教育相談部会	生徒の情報交換を行い、臨床心理士の先生をふまえた会議を定期的に行い、組織を確立していく。	・教育相談部会が効果的に行われたか。評価()
動的情報セン	情報収集	生徒の健康診断の結果を始め、出欠状況や来室状況についてPCを利用して統計・整理を行う。	・情報収集・発信とした機能を果たせたか。評価()
	情報発信	保健安全部だよりを通して保健・安全・環境について情報を発信する。	
保健室経営の改善点			
* 年度末に保健室経営の評価後、評価内容について記述する。			

健康教育における評価規準

健康への関心・意欲・態度	健康についての思考・判断・実践	健康についての知識・理解
自己や他者の健康に関心を持ち、自己の健康課題を見つけ、意欲的に健康の保持増進に取り組もうとする。	自己の健康の保持増進について仲間の意見や考えをもとに、課題解決の方法を考え、判断し、自己の生活に生かして実践している。	自己や他者の健康で安全な生活のあり方などについて理解している。

健康教育の指導と評価の年間計画（第1学年）

月	活動内容	指導のねらい	めざす生徒の姿（主なもの）		
			健康への関心・意欲・態度	健康についての思考・判断・実践	健康についての知識・理解
4月	* 定期健康診断 * ほげんだより	自己の健康について意識を持たせる	健康診断を積極的に受ける。	健康診断の結果から自己の健康課題を考えている。	健康診断を行う理由を理解し、健康診断を受ける内容や方法を理解している。
5月	* 健康の自己管理と保健室【保健指導】 * 保健掲示物 * ほげんだより	新しい環境となり、大きく生活が変化する中で、自己管理に心がける態度を育てる。	健康に関心を持ち、基本的な生活習慣について振り返り、関心を持っている。	自己の生活習慣から、自己の生活に対しての問題点を考え、改善点をあげることができる。	生活習慣と健康の関係を理解している。
		体調不良時に、自主的に適切な対応がとれる。	朝の健康観察において自己の健康状態を見極め、関心を持っている。	体調不良時、主体的に行動し、相手に対して状態を述べている。	体調不良時における伝えるべき必要な情報を理解している。
7月	* 一泊合宿での健康と安全管理	旅行前からの自己での体調管理を含め、全体が健康安全に過ごすことができる。	健康と安全を意識した中で旅行・集団宿泊的行事に取り組もうとしている。	健康・安全であるための行動を考え、判断し協同して実践している。	宿泊時における健康・安全に配慮する点を理解している。
9月	* 成長と生活リズム【保健指導】 * 口腔内の健康【保健指導】	自己の成長に意識をもたせ、生活リズムと比較しながら自己管理	4月からの生活状況の振り返りに取り組んでいる。	4月からの成長と生活状況を振り返り、問題点を考え、健康課題を考え実践方法をあげる。	生活習慣と健康の関係を理解している。
		自己の口腔内の健康に意識を持たせる。	口腔内の健康について積極的に知ろうとしている。	自己の生活習慣を振り返り、口腔内の健康状態を述べ、改善点をあげて実践できる。	う歯と歯周疾患のしくみを理解している。
3月	* 健康生活の反省	4月に立てた健康目標に対して振り返り、自己の健康を考える態度を育てる。	自己の健康について考え、基本的な生活習慣を振り返ろうとしている。	規則正しい生活習慣と自己の健康をつなげて考え、1年間の健康目標から自己の健康を振り返り、改善点をあげる。	生活習慣と健康の関係を理解している。

そのため、次の指導計画を作成した。

健康診断による健康教育指導計画

日時 ○○年○月○○日(○) 第○校時
指導者 ○○ ○○

1. 題材 「自分の健康の状態を知ろう」

2. 題材について

(1) 生徒の実態

本校の生徒は、比較的知識を多く持っており、大人の言うことをしっかりときく生徒が多い。また、家族の中で医学に関わる仕事をしている生徒が多く、生徒自身も将来、医学に関わる職につきたいと思っている割合が高い。

しかし、生徒自身の生活状況は遅くまで塾に通い、就寝時刻が2時や3時や朝食は食べない、という生徒も珍しくない。

(2) 題材設定の理由

生徒は、体の成長に興味関心が高く、休み時間に身長や体重を測りに来る生徒も多い。中学生というからだの成長・発達が著しいこの時期に、健康診断を健康教育の一つとした活動を行うことにより、自分のからだに興味・関心を持ち、主体的に健康を考える基礎となり、生涯にわたる健康の保持増進のために必要な実践力をつけることができると考え、本題材を設定した。

3. 指導のねらい

定期健康診断を行うなかで、自分のからだに興味関心を持ち、主体的に健康を考え、自己の生活を振り返り、より健康な生活を選択し実践する力を育てる。

4. 健康診断の評価規準

健康への関心・意欲・態度	健康についての思考・判断・実践	健康についての知識・理解
自己の健康に関心を持ち、定期健康診断での検査・検診を主体的に受けようとしている。	定期健康診断で行われた検査・検診の結果から、自分の健康課題を見出し、自己の生活状況を振り返りながら、より健康な生活を考え、判断し、実践している。	定期健康診断の意義や検診方法を理解している。

5. 指導の過程

(1) 事前の指導と生徒の活動

	活動の内容	指導上の留意点	めざす生徒の姿と評価方法
事前	◆保健調査 保健調査項目を自分でしっかりと読み、あてはまる症状に印をつける。	現在の健康状態を捉えさせる。	【関心・意欲・態度】 自分自身の健康に関心を持つようとしている。【観察】
	◆各学級 健康診断を受ける準備が必要なことを知る。	自分が受ける検診項目をしっかりと把握する。	【知識・理解】 検診項目、検診方法を理解している。【観察】

(2) 本時の指導と生徒の活動

① 本時の活動テーマ

「あなたのからだは健康？不健康？～自分のからだを見直して、健康である方法を考えよう～」

② 本時のねらい

主体的に健康診断を受けることにより、疾病の早期発見をするとともに、自分のからだや健康に興味・関心を持ち、自分の生活習慣を振り返り、自己管理に努めようとする態度を育てる。

③ 教師の指導計画

	活動の内容	指導上の留意点	めざす生徒の姿と評価方法
本時(本日)	活動の開始 健康診断の流れについて説明を受ける。	健康診断は、健康を保持増進するうえで将来に渡って大切なものと意識させるためにも、健康診断の意義について必ず押さえる。 ＝健康診断の流れ＝ ・意義 ・検診項目と時間の確認 ・マイヘルスに自分の身長・体重のグラフ記入の仕方について ・健康ワークの記入について	【知識・理解】 健康診断の意義や検診項目を理解している。【観察】

		活動の内容	指導上の留意点	めざす生徒の姿と評価方法
本 時 （ 本 日）	活 動 の 展 開	◆健康診断の実施 健康診断を受ける。	各検査・検診毎に検査目的を説明し、検診が学校全体でスムーズに進むようにする。 主体的に自己のからだと自己の健康に向き合える環境作りに配慮し、記述させる。	【関心・意欲・態度】 健康診断を積極的に受け、自己のからだに関心を持っている。[観察]
		◆グラフの記入 身長と体重のグラフを記入し、BMIを計算する。		
		◆健康ワークの記入 自己の健康状態と生活習慣を書き出してきて、自己の健康課題と今年の健康目標をたてる。		【関心・意欲・態度】 自己の健康や生活習慣を積極的に見直しながら記入している。[ワークシート] 【思考・判断・実践】 自己の体調や生活習慣から健康課題を考え、何を改善すべきか判断している。 [観察][ワークシート]

(3) 事後の指導と生徒の活動

		活動の内容	指導上の留意点	めざす生徒の姿と評価方法
事 後		◆検診結果のお知らせ 結果のお知らせ用紙をもらった人は、早期受診に心がける。	早期受診と受診後はすぐに学校へ提出するよう啓発する。	【思考・判断・実践】 検診結果から、適切な行動の仕方について考え、実践している。[観察][治療のお知らせ]
		◆生徒保健委員会 附中生は健康か？！		
		◆9月身体測定 4月にたてた健康目標の修正を行う。	4月からどれくらいからだは成長・発達したか比較し、成長・発達段階における生活を考えるように働きかける。	【意欲・関心・態度】 積極的に目標修正に取り組んでいる。 [観察][ワークシート]
		◆歯科保健指導 健康診断の結果から、口腔内の健康について考え、自分の行動を考える。	歯・口の健康は食（＝生きること）につながる意識を持たせるように指導する。	【思考・判断・実践】 健康診断の結果を踏まえて、自己の歯の健康を考えて、生活状況を振り返り、自分の行動を判断している。

評価は、めざす生徒の姿と評価方法という形で表した。健康に対する評価基準は、個人の健康差があり、他の教科のような評価基準では評価できないと考え、ワークシートで自分の生活を振り返り、1年間の健康目標をたて、その具体的な活動を自分で考えるとともに、定期的に振り返りを行うことで評価の参考にできると考えた。

6. 成果と今後の課題

健康教育における評価の観点及びその趣旨を作成し、今まで単発的に行われていた保健指導を3年間の健康教育ととらえて1年生の年間計画を立てた。これを行うことにより、めざす生徒像に近づく手だてが明確化され、指導方法や指導案、評価方法などを関連して考えることができ、指導内容に厚みが出てくると感じた。

また、3学年ごとの健康教育の評価の観点と評価規準を作成することは、大変なことではあるが、養護教諭だけの取り組みでなく、学校全体として健康教育に対しての取り組みを表すことができ、担任や学年の教職員にも理解と協力を得やすいのではないかと感じている。

ワークシート等を使うことで思考力・判断力・表現力等の評価をすることはできると考えた。より高めた視点で考えると、実生活につながる行動に移せたか、または移そうとしたかという態度・行動

の変容や習慣化の部分を記述したり，保健室へ来室した際のやりとりから行動変容につながっているかどうかを評価したりすることも重要なのではないかと考える。

今回，年間計画を作成することに時間がかかったことと，学校保健として言語活動を取り入れた活動を行うには新1年生の早い段階で体調不良時の表現方法を指導した方がよいと考えたため，授業の実践には至らなかった。今後は，2012年度の新1年生を対象に実践すると同時に，2，3年生においても年間指導計画を作成し健康教育について進めていきたい。